

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人 愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和1年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じ、日本の年中行事を大切にしています。例えば食事では、お正月にはおせち、七夕そうめん、敬老の日の御膳などを一緒に楽しんでいます。また、春にはお花見、夏には夏祭り、秋には紅葉狩り、冬には鏡餅作り等もを行います。外出が難しくなった方にもたのしんでいただけるように、施設内での行事も力を入れています。それ以外でも、近所の方との交流が盛んで、頂いた梅の実で梅ジュースを作ったり、渋柿をいただいた時には皆さん総出で皮をむいて、100個もの干し柿を製作しました。出来上がった干し柿は同法人の特養におす分けにも行きました。また、グループホームの広い敷地には畑もあり、利用者様と、同法人の園児と一緒にイモや玉ねぎを栽培しています。収穫の喜びを分かち合います。開設当初から世代間交流に力を入れてきました。ご家族との交流も密に行い、たくさん訪問して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園が母体法人というメリットを最大限に活かし、保育園児との交流が日常的にあるのも特長の一つである。今日もホームの玄関を入ると沢山の小さな靴が並び、奥から賑やかな笑い声や話し声が聞こえてきた。年長組の園児達が訪問に来ているのに出会い、私達にも挨拶をしながらワイワイガヤガヤと嬉しそうに帰って行った。地域交流・世代間交流を掲げ、定期的にこのような利用者と子供達との触れ合いを楽しんでいる。音楽療法・生け花教室・お茶会等、アクティビティも様々な用意されていて、定期的に開かれており、「活け方にも個性がある」と職員が言うように、「自主性」と“その人らしさ”を大切にしている事が各居室に飾ってある生け花を見てもよく分かる。常に満床で待機者もあるのが頷ける。また、勤務年数の長い職員が多く、両管理者を中心にコミュニケーションもよく取れ、仲が良い。これからも「心のケア」を中心としたホームであり続けて下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をしっかりと念頭に置いて、日々のケアに当たるように努力しています。	理念を同法人の特養と統一し、「地域に愛され、利用者に愛され、職員に愛される施設を目指そう」に一新して玄関等に掲示し、新しい目標に向かって頑張っている。また、書類の様式も改善して業務の効率化を図るようにした。	これまでの基本理念の五徳(五つの素直なところ)から、今年度は新しい理念に変更になったが、目指すべきところは一緒なので、地域の高齢者福祉をしっかり展開して下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共にボランティア、めばえ保育園園児との交流などを日常的に行っています。	地域の中にどつしりと根を下ろしているホームは、同法人の特養・保育園等とも頻繁な交流があり、地域の様々なボランティアも定期的に訪れ、活発な活動をしている。地域の祭りに合わせ、保育園でもおまつりごっこを行い手作りの神輿を引きホームに遊びに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で一般市民向けに座学を定期開催しています。新聞の情報提供欄にも開催日を掲載してもらいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、ご家族様はもちろん、他事業所や病院MSWからもご意見いただきサービス向上に活かしています。	定期的に運営推進会議を開催しており、毎回多彩なメンバーで有意義で活発な意見交換を展開している。ホームの現状や活動報告等に加え、介護保険法の改正により義務付けられた「身体拘束防止委員会」を設置し、身体拘束の実態についての報告もしている。	毎回、多くの参加者を得てよく話し合っているようだが、議事録には意見交換(参加者の発言)の記載が少ない。情報提供や質疑応答もきちんと記録に残し、課題の把握や今後のサービス提供に活かしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	倉敷市介護保険課の担当者に運営推進会議に出席して頂き、適切なアドバイスを頂いています。	市の担当者とは日頃から良い関係が構築出来ており、生活保護者に関するアドバイスを受けて、家族に代わって税金の事で相談した事もあった。市主催の研修等には積極的に参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行っています。毎月会議では身体拘束について確認をし、運営推進会議にて身体拘束したか、検討した事例はあるかなどの報告をしています。	身体拘束を必要とする人はいないが、外に出るのが好きな人に対しては、本人の思いを尊重し、職員が寄り添いながら気分転換をしてもらっている。身体拘束廃止・スピーチロックの抑止等の研修をして職員間で周知徹底を図っている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて虐待防止の徹底を職員間で話し合うと共に、外部講師を招いての虐待防止研修を年1回、法人全体研修としては年2回行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使い、成年後見人との連携をとった経験があります。法人に倉敷市連島南高齢者支援サブセンターもあり、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項等説明ししっかりと納得いただけたうえで、契約を行っています。また、入居後も疑問などある場合はその都度対応させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱をを設置していると共に、入居者及びご家族が意見や要望を言える関係作りに努め、それらを運営に反映させるようにしています。	全体的に日頃から家族の面会率が高く、直接話し合う機会が多い。「ドライブさせたい」「外出させたい」という家族の要望を受け、受診の時等に家族と話し合っ協力してもらっている例もある。生活の様子や近況報告は手紙や新聞でお知らせしている。	毎月送付している家族への手紙の中に、本人の言葉や微笑ましいエピソードを少し入れてみるだけでも、読んだ家族に喜ばれると思う。検討してみてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議等で各職員が発言できる機会を設けると共に、法人として夏・冬年2回法人役員が各職員の面接を行っています。	勤務年数の長い職員が多いので、お互いに気心の知れた関係であり、忌憚のない意見交換やコミュニケーションもよく取れている。また、法人の上層部との面談もあり、運営や処遇に対して相談や要望を聞いてもらえる体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、夏・冬年2回自己評価の実施及び、リーダー級以上の職員による各職員の評価を実施し、各職員のやりがいや目標の確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で年2回全体研修会を実施すると共に、年10回キャリア形成訪問指導事業を活用した外部講師を招いた研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム運営推進会議に出席し、情報交換などお互いのサービスの質の向上に努めています。また、地域の福祉施設、医療機関との交流会にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様の状態、意向等を伺い、信頼関係を築く努力を行っています。本人様の様子をみながら、入居後、安心して暮せるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い、要望等を伺い、信頼関係を築くように努力しています。入居後も電話や面会時にコミュニケーションを多くとり、本人様が安心して暮せるように一緒に関わられる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にゆっくりお話を伺いながら、その時必要としている支援は何かを考え、新たなサービスのきっかけとしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションなど通して、入居者様から手順や方法等を教えて頂くことも多くあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様がご家族との繋がりを大切に思っ て頂けるように、ご家族と連携を取りながら一緒に支えていける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様通して、ご自宅で馴染みであった方に来ていただけるようお声掛けする支援など行っています。そのため、入所して数年たっても近所の方が訪問して下さり、また家庭菜園の野菜を持って来て下さったりと関係が継続できている。	馴染みの美容院へ毎月夫と一緒に行く人もいれば、孫嫁と来訪するひ孫の宿題を一緒にしながら、先生の役割をしている人もいます。それぞれの家族間も絆の深い人が多く、馴染みの場所や人との関係を大切にするように日々支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通して入居者様同士が良好な関係を保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、気軽に訪ねて頂けるような関係づくりに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様にその都度お伺いし、希望、意向の把握に努めています。また、ユニット会議などで職員間で利用者本位のサービスが提供できているかなど検討しています。	「自分の胸の内をよく話してくれる。心情を吐露してくれる」というAさんとは、職員も時間がある時はよく話をしていると聞いた。利用者が気軽に話しやすい雰囲気がこのホームにはあるのだろう。一人ひとりの個性に合わせたコミュニケーションの取り方をするように努めている。	法人内で記録の様式も統一し、変更したとの事であるが、本人の言葉や行動に対して、どう感じたか、その背景にある原因は？どのような対応をしたか等も併せて記載し、職員間で共有し、ケアプランに反映させて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族、ケアマネジャー様はじめ関係医療機関や介護事業所から情報提供を頂き、生活の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から入居者様の出来る事、出来ない事等を見極め、個々人の役割を持っていただくように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の意向をもとに、定期的にカンファレンスを行い、現状のニーズに見合った介護計画を作成しています。	ここでどう暮らしたいか等、本人・家族の意向を聞き取り、ADL等本人の状態をよく把握して職員間で話し合っケアプランを作成している。3ヶ月毎のモニタリングやケアチェック表を基に、一人ひとりのニーズを抽出してサービス内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間では申し送りノートを活用し、状況の変化等でケアの差が生じないよう情報の統一を図ると共に介護計画にも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションへの参加など無理強いせず、入居者様の状況に応じた対応を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お友達やご家族の面会などから充実した暮らしが継続出来るよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられる時のかかりつけ医を希望される方は、ご家族と職員が連携し、受診対応するようにしています。また、訪問診療を利用されている方もおられます。また、家族での受診対応が難しくなった方、等受診時の対応などの相談行っております。	従来のかかりつけ医を受診する人が大半で、家族が受診の付き添いをするケースが多い。訪問診療を受けている人は24時間対応してもらえるので心強い。主治医に詳細な手紙で状態を知らせたり、申し送りノート(受診用)を作って職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携は密にしています。また、急変時は24時間体制で相談でき、適切なアドバイスを頂くことができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院関係者との連携を図っており、入院時は円滑に、また早期に退院出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針と本人様、ご家族の意向の話し合いを持っています。随時、本人様、ご家族と話し合いながら病院やその他事業所へ結び付けるなどの支援を行っています。	今いる利用者も高齢化、重度化が進んでいるが、基本、グループホームでの看取りはしない方針であり、入居時家族に説明し同意を得ている。特養の順番が来たり、医療が必要になった人は移行や入院となる。医療行為は出来ないが、在宅酸素やバルーン装着の人へは可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署署員による救急救命講習を行うなど、急変時等に対応した動きがとれるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い、避難経路や通報装置の使い方などを再確認しています。また、非常時の法人連携も話し合っています。	年2回、避難訓練を実施しており、消防署立ち会いの下、水消火器を使用した消火訓練をしたり、法人施設と合同で南海トラフ地震(津波)を想定した避難訓練を実施している。倉敷リバーサイド病院が水害時の第1避難場所になっていると聞いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの生活暦や性格を把握し、人権・人格を尊重した声掛けや対応をするように心がけ、また法人全体での年2回の全体研修会も開催しています。	接遇マナーの研修をして、利用者に対しての言葉使いや接し方等に気を配り、人生の先輩として敬意を払うように心がけている。また、入浴・排泄介助時の羞恥心にも配慮しており、声かけの仕方や同性介助の必要性を考慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人様の意思を確認しています。また、本人様が自分の思いを言いやすい雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人様の性格や生活ペースを大切にしながら生活を送って頂いています。また、ご希望があれば出来る限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好きな服などを一緒に選んだりしています。また、訪問カットで好みの髪型になるように支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	より幅広い食事のニーズに対応する為、これまでよりも多くの食形態に対応できるようにした。また施設の食事だけでなく、外食支援にも力を入れている。季節には鍋や、おはぎを作ったり、おやつ作りをしたり等、一緒に調理を楽しむ機会も設けている。利用者様の出来る力を最大限発揮して頂けるように、ちょっとした、食事準備や下ごしらえ、後片付けも手伝ってまいります。	今年4月から外部委託業者を変更し、ソフト・やわらか・ミキサー・普通食等その人に合った食形態で提供している。季節感を大切にし、イベント食には出前を取ったり、中華バイキング形式にして喜んでもらっている。職員と一緒に話をしながら楽しく食事をし、完食する人が多かった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、意向を伺ったうえで食事形態や水分の種類などをかえ、出来る限り摂って頂くよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや義歯消毒をし、清潔に努めています。必要であれば歯科との連携も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のあいまいな入居者様でも、定期的にトイレへの誘導、声掛けを行い、自立支援に努めています。また、一人一人に合った排泄のタイミングや、リハビリパンツ、尿取りパットを活用し、より快適に生活できるよう検討を続けています。	重度化して紙おしめで全介助の人は1名。排泄が自立の人には布パンツ対応、一部介助・見守りが必要な人にはリハビリパンツにパットで対応している。表情やしぐさ等様子を見ながら、声かけや誘導をして排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配ったり、食物繊維を多くとって頂くなど心掛けています。また、牛乳やヨーグルト、適度な運動等で便秘予防に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の入りたい時間帯に入浴して頂くように可能な限り対応しています。身体状況によってはゆっくりと湯船の中につかることが難しい方も、シャワーや足湯を行ったりして体が芯まで温まるように対応させてもらっています。	一部のシャワー浴の人以外は、浴槽にゆっくり浸かって入浴してもらっているが、拒否が強い人の場合は家族に協力してもらいながら毎週きちんと入浴出来ている。週2回を基本とし、職員とコミュニケーションを取りながら、しっかり会話をする時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅での生活習慣を踏まえ、安心して気持ちよく眠れるような居室環境づくりや、お話を聞くなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用、使用している薬については、全職員が周知出来るよう見やすい場所にファイルを置いたり、情報共有を図っています。変化があればすぐに主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや調理などの出来る事を活かし、多くの役割を持って頂くように心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした散歩や、買い物などの日常的な外出支援にも力を入れています。自宅が施設近くの方もおり、天気の良い日には自宅に戻り、自宅の様子や畑の様子を見に行かれます。ご家族も快く迎えて下さり、また、近所の方も声をかけて頂き入居前と変わらぬ外出を支援しています。	季節感や出来る限り多くの非日常を味わってもらおうと、花見や紅葉狩りを予定したり、ドライブや特養と合同での外出等を企画している。天気の良い日は近くの公園に散歩に行く、法人の特養へお出かけ等、気分転換をしてもらっている。また、家族の協力を得て外食、墓参り等の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にグループホームにて小口現金を預かり、そこから支出しています。パンの移動販売やヤクルト販売、買い物レクなども行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望されるときは、電話にて話をさせて頂いています。また、手紙の投函代行も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの外回りには花や野菜を植え、フロアは季節のものを入居者様と一緒に作り飾っています。また、温度や光などは職員が管理をし、随時対応しています。また、懐かしい音楽をかけたりもしています。	両ユニットを繋ぐ広いウッドデッキには、近所から頂いた柿を利用者・職員共同で干し柿にして吊るしてある。リビングではテレビを観ながら好きな歌手の歌を口ずさむ人や、ジグソーパズルを楽しんでいる人もいて、それぞれ思い思いにゆったりと自由に過ごしており、居心地の良い環境になっている。	昔取った杵柄で、干し柿作りが得意な人から作り方を教えてもらう等、役割を持ってもらう事は生きがいがいい満足感につながりとても良い。生活リハビリを兼ねてこれからもどんどん仕事(役割)を作っておいて下さい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレまで近い距離を希望される方、テレビが見やすい席を希望される方、歩行器の移動で座りやすい席を希望される方、仲良しの方と一緒に席を希望される方等その方、その方の状態に合わせた席の配置も都度検討しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具なども置き、自宅と変わらない環境づくりによって混乱なく、落ち着いて過ごされるような工夫をしています。絵手紙や貼り絵などで居室を飾ることに喜びを持たれる方もいます。配偶者の写真を飾り、お供えを日課としている方もおられます。お一人お一人の思いの詰まった空間を大切にしています。	家族の写真や子・孫からの心温まる手紙などが壁いっぱい貼ってある室内を見ても、家族の愛情が感じられる。そんな居室が沢山ある。仏壇を持参して毎日お供えや話しかけを欠かさない人もいる等それぞれ、その人らしい住み心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に写真を貼り、スムーズに生活が送れる工夫をしています。		